# 第12回 女子美ミラノ賞 報告書

2018年9月14日~2019年4月15日

我如古 真子



我如古 真子 GANEKO MAKO

https://www.ganekomako.com/

## 学 歴

2002 年 女子美術大学短期大学部服飾科服飾デザインコース卒業

2003 年 女子美術大学短期大学部専攻科服飾専攻修了

2017年 沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科環境造形専攻修了

## 職歴

2007-2011年

女子美術大学芸術学部ファッション造形学科専任助手

2011-2012年

女子美術大学芸術学部アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域特任助手 2012-2015 年

沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻助手

#### 項目

- 1. ミラノ滞在の動機・目的
- 2. 制作・研究活動
- 1) 紙漉き文化に関する調査
  - ①ファブリアーノ 調査・見学 9月11~12日
  - ②ブレラ国立美術学院 10月~2月
  - ③展示会 SPOLETO 12月8日~3月8日
  - ④版画工房 制作 12月3~14日
  - ⑤紙漉きのワークショップ 2月23日・3月31日
- 2) 幼児教育 (REGGIO CHILDREN) の調査・見学
  - ①Centro Internazionale Loris Malaguzzi

(ローリス・マラグッツィ国際センター) の見学 3月11日

- ②REMIDA(レミダ)の調査・見学 3月26日
- 3. 住居・生活について
- 4. 今後の制作活動の課題

#### はじめに

第12回女子美ミラノ賞によりブレラ美術学院の研究員として、2018年9月から2019年3月の期間ミラノに滞在し研究する機会を与えていただきました。このような機会を与えてくださった名誉理事長大村智先生、女子美術大学に心より感謝を申し上げます。

# 1. ミラノ滞在の動機・目的

「もの」が消費生産され続ける今日、沖縄の自然環境のなかで派生した伝統や文化をファッションでどのような展開が可能か分析し、将来の世代に継承するために、イタリアにおける持続可能な暮らし(サステイナブルライフスタイル)を調査し、芸術とその教育方法について考察することが滞在目的である。

今回、ブレラ国立美術学院の研究員として、私は以下の調査研究及び制作を行いたいと思う。

- 1. 紙漉き文化(コットン紙)に関する調査:近年私は、「生命の循環」をテーマに紙漉きの技術を介して、沖縄の植物と古着の繊維を再資源化(リサイクル)して新しいものに変える、持続可能性について研究してきた。そのアイデアは、イタリアのファブリアーノ地域の紙漉き文化からの影響があった。13~19世紀までファブリアーノで作られていたコットン紙は、衣料に使用されていた木綿クズが原料になっていた。この様な歴史を踏まえ、現代社会における衣服の使用後の活用方法(リサイクル×紙漉き)について調査しイタリアの紙漉き技法を取り入れながら自身の作品を発信したい。さらにイタリア独自の透かしの技術と耐久性を持たせる為の動物のニカワに漬け込む方法を習得し、自身の紙漉きの手法において新しい要素として取り入れたい。実際に現地へ行き、紙漉き文化に関する実践を踏まえた調査を行うことは、今後の制作に重要であると考える。
- 2. レッジョチルドレンの幼児教育の見学:衣服は私たち人間が生きて行く上で必要な存在であり、子供たちが身近な衣服とリサイクルについて知ることは、ものの大切さやものに命があったことなどの学びが生まれると考える。芸術教育は、子供たちに多様な感性を持たせ、豊かな想像力をもたらすことが可能であり、幼児期に多くの経験をして創造していくことは重要と考える。リサイクルと美術による幼児教育で有名なレッジョ・エミリア市で実際の教育現場と REMIDA (レミダ)を見学し、リサイクルを通して子供の想像力に働きかける幼児教育の可能性について調査・研究を行う。

イタリアでは、生産された「もの」に感謝し、廃棄される「もの」を再資源化(リサイクル)によって新たな価値を創出すること。即ち持続可能な暮らし(サステイナブルライフスタイル)に着目した半年間の調査・研究及び制作を望んでいる。

## 2. 制作・研究活動

## 1) 紙漉き文化に関する調査

① Faburiano ファブリアーノ 調査・見学 9月11~12日 <a href="http://www.museodellacarta.com/">http://www.museodellacarta.com/</a>

場所: Largo Fratelli Spacca, 2, 60044 Fabriano

ファブリアーノは、イタリア共和国マルケ州アンコーナ県にある都市で、製紙の町として知られている。 紙とフィリグラーナの博物館(Museo della Carta e della Filigrana)を訪問した。





「紙とフィリグラーナの博物館」の入口と中庭に展示されている紙の原料を粉砕する道具

13~19世紀までファブリアーノで作られていたコットン紙は、衣料に使用されていた木綿クズや雑巾などが原料になっていた。現在でも手漉きで紙を製造しているが古着を使用せずにコットンボール(わた)を材料にして紙を生産している。ここでは、過去に使われていた木製の機械や道具、紙漉きの職人が実際に製造している様子を見ることができる。さらに透かし技法(Filigrana)の版の製作方法など、紙の原料作りから製品になるまでの工程を解説していただいた。透かしの技術には紙幣の透かし模様を作り出す版もあり製作されているが、現在は製作する技術者が少ないためレーザーカッターで版を作ることも多いとのこと。紙漉きの体験をして感じたことは、わたを細かく粉砕した原料を使っているので繊維がほとんどなくなるため、ある程度の厚みのある紙になった。また、効率良く生産するために紙漉きの原料と一緒にうさぎの膠を入れている。うさぎの膠は、皮なめし工場からの廃棄物をリサイクルして使用されており、それは印刷した際のインクのにじみをなくす効果(サイジング)がある。さらに紙の強度をもたす役割があると考えられる。繊維がほとんどないので透かしの技法(Filigrana)を使った紙を作ることも可能であることがわかった。



紙の原料となる古着



紙の原料(古着)を粉砕する



職人による紙漉き工程の解説



現在もフェルトに漉いた紙を移し取っている



うさぎの膠を一緒に原料に入れる



透かし技法(Filigrana)の版の解説



透かし用の版



透かし模様の紙



漉いた紙の水分を取り除く



電気の熱で紙を乾かす





#### ②ブレラ国立美術学院 10月~2月

https://www.accademiadibrera.milano.it/

場所: Via Brera 28 Milano Italia 20121



9月21日(金)午後に清水哲郎先生にブレラを案内していただき、国際センターのエリザベッタさんに学生証の発行手続きを行った。(ブレラの学生は学生証を提示すると2階にあるブレラ絵画館に無料で入館することができるので時間をかけて何度も訪問した。)授業が始まるまでは、授業開始日やカリキュラムなどが日々更新されるので校内の掲示板と HP をチェックする必要がある。私は9月27日(木)9時から PITTURA の教授によるプレゼンテーションに出席し、清水先生のアドバイスを受けながらどの授業を取るか決めた。私は、イタリアの紙漉きの文化と紙漉きをベースにして新たな表現手法を模索するための参考になればと思い、Ignazio Gadaleta 教授の「Pittura (絵画)」と「Cromatologia (色彩学)」、Labbe Margherita 教授と Fanelli Gaetano 教授の「Tecnologia della carta (紙漉き)」を受講した。ここでの紙漉きは、楮や三椏など日本にあるような材料を使うのではなく、古着や古紙を原料にしてリサイクルしている。それは私の研究テーマでもある持続可能性と一致するものであり、非常に興味深い授業内容だった。

「Tecnologia della carta(紙漉き)」Labbe Margherita 教授 月・火・水曜日  $9\sim1~4$ 時 ここでの授業は、イタリアの紙のリサイクルについての講義と古着の繊維や古紙を材料に紙漉きを行う。イタリアで生活するとゴミの分別が細かいと感じていたが、授業の中でも環境やリサイクルについて理解を深め、そこからアートを創造することに感銘を受けた。そして学生たちはこの授業で何を考えてどんな作品を作りたいのかを積極的に教授と話し合う姿勢があった。私も自身のポートフォリオを見せながらイタリア語で常に対話をしようと努力した。その結果、Labbe Margherita 教授から授業後にお声がけいただき、Spoleto(スポレート)で開催される展示会「Spoleto 1° RASSEGNA BIENNELE FIBERART」に参加することになった。(展示会の様子は次項参照)授業では、透かし技法や凹凸の技法を習得した。透かし技法は白い紙の原料が向いていることや日本の和紙の原料になっている楮を使い透かし技法を試したが、楮は繊維が長いため上手く透かし柄を表現できなかった。











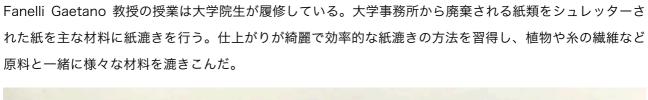


透かし模様(Filigrana)



Labbe Margherita 教授(右)と詩人でアーティスト Fancis Catalano 氏特別授業

「Tecnologia della carta(紙漉き)」Fanelli Gaetano 教授 木・金曜日 9~14時













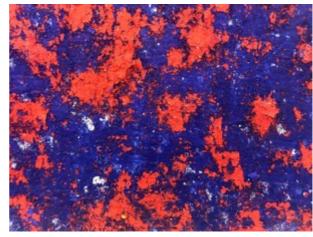


「Pittura (絵画)」Ignazio Gadaleta 教授 隔週月·土曜日 9~14時

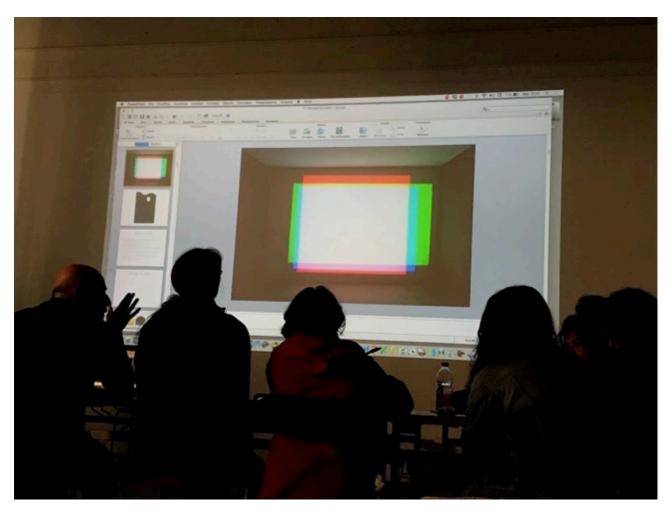
絵画の授業は、Gadaleta 教授の本(punti e filament di colore)を参考にしてイタリアの芸術家の作品の一部を大きく切り取り、色の重なりや組み合わせを観る。そして美術館に行き実際の作品を観て、自身の制作に取り入れることだった。また、学生がそれぞれの作品を持参してプレゼンテーションを行う。それは教授と個人ではなく他の学生も参加することによって、制作に関する様々な考え方やその学生の出身や文化についても理解することができた。この授業を通して、どんなことを考えて制作をしているのか自分の考えを話すこと、そして新たなものの見方をみつけた。

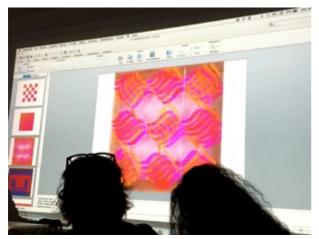


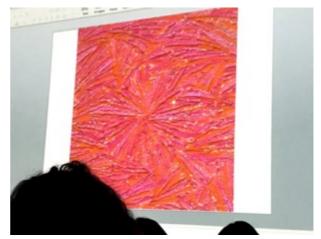




「Cromatologia (色彩学)」Ignazio Gadaleta 教授 火・水曜日  $9\sim14$ 時 絵画と同じ Gadaleta 教授の授業を履修し、関連がありとても興味のある内容だった。プロジェクターを使っての講義だったのでイタリア語の授業でも理解しやすかった。







## ③展示会 SPOLETO 12月7~3月8日

Labbe Margherita 教授が声を掛けて下さり、Spoleto(スポレート)で開催される展示会「Spoleto  $1^\circ$  RASSEGNA BIENNELE FIBERART」に参加することができた。ペルージャの繊維会社から提供された糸や布の端切れを材料にして、これらの繊維を分解して紙漉きの技法を使い、約一か月かけて小作品を3つ制作しそのうち2点を展示した。展示会初日のオープニングにも出席し、イタリア各地から参加しているアーティストと知り合うことができた。





糸や生地の端切れを材料にして制作



制作した3点の作品のうち、左と中の作品を展示







展示会のポスター









オープニングの様子







展示会冊子

#### ④版画工房 制作 12月3~14日

#### http://www.gatefortyfour.com/

場所: Corso Magenta, 44, 20123 Milano

清水先生に美術家の塚本裕子さんを紹介していただいた。塚本さんは私のアパートの隣に住んでおり、ブレラ国立美術学院を卒業しイタリアでアーティスト活動をされている。塚本さんの制作で利用している版画工房 GATE44 で銅版画を体験する機会を得た。工房では、アーティストの Glen 氏と Monia 氏に指導をしていただいた。ブレラ授業後の6日間版画工房へ通い、4種類の技法(Puntasecca ドライポイント・Aquaforte アクアフォルテ・Aquatinta アクアチント・Ceramolle ソフトエッチング)を学ぶ。自身の漉いた紙に印刷することを目的にして、ブレラでは印刷ができるような紙を漉くように何度も試した。そしてイタリアへ来て印象に残ったルッコラとぶどう、ミラノのドゥオモ、トスカーナの風景をそれぞれの技法で版を作り印刷した。



Puntasecca ドライポイント (左、ルッコラ)・Aquaforte アクアフォルテ (中・右、ぶどう)



Ceramolle ソフトエッチング(左、Duomo)・Aquatinta アクアチント(右、トスカーナの風景)

























⑤紙漉きのワークショップ 2月23日・3月31日 参加者:25名

http://www.paraventigiapponesi.it/eventi/kami-suki.shtml 場所: Via Marsala, 4, 20121 Milano 女子美術大学同窓会イタリア支部の飛舗亜紗子さんと一緒にギャラリーPARAVENTI GIAPPONESI で日本の紙漉きの材料(ミツマタと楮)と大和藍を使い、紙漉きと藍染のワークショップ(3時間)を計4回行った。約一ヶ月前からギャラリーの Raffaella さんと飛鋪さんと私で日本における紙漉きの文化や工程などを理解し合いワークショップの内容について打ち合わせを数回した。イタリアではミツマタや楮など和紙に関する材料を用意することが難しく、私が日本から持参したこれらの材料を使えるとのことで多くの方が興味を持ち参加してくださった。参加者の多くは、アーティストや学校の先生で日本の文化や和紙に関心があり、私にとって非常に良い経験だった。撮影:市塚和枝さん(沖縄タイムスミラノ通信員)









## 2) 幼児教育(REGGIO CHILDREN) の調査・見学

①Centro Internazionale Loris Malaguzzi(ローリス・マラグッツィ国際センター)の見学 3月11日 <a href="https://www.reggiochildren.it/">https://www.reggiochildren.it/</a>

場所: Reggio Children c/o Centro Internazionale Loris Malaguzzi

Viale Ramazzini 72/A - 42124 Reggio Emilia

2011 年にワタリウム美術館で開催された「驚くべき学びの世界」展を観て以来、その教育法に感銘を受け実際にレッジョ・エミリア市へ訪問することを熱望していた。2012 年に完成したローリス・マラグッツィ国際センターは、子供やその可能性に焦点をあて、イタリアと世界で教育と文化を革新することを目的とした人々に捧げられ、未来のため、あらゆる年齢層、様々な文化、アイデア、希望、想像力に開かれた国際的な場所となっている。それは子供たち、若い人々、家族への創造性の機会と国際的な教育共同体に新しい機会を提供することを目指し、市民アトリエ、展示スペース、レッジョ・エミリアの教育ドキュメンテーションおよび研究センター、ブックストアそしてカフェがある。レッジョチルドレンの教育は、すべての幼稚園に「アトリエスタ」芸術の専門家と「ペダゴジスタ」教育学者が配置され様々な素材を活用したプロジェクトが実践されている。対話が重要視されており、自分の考えを他人に伝えることやお互いの気持ちを理解し合うことが教育の要となっている。館内は撮影禁止だったが、展示会、プロジェクトの工程やアトリエ、素材など多くの資料が展示されている。











## ②REMIDA(レミダ)の調査・見学 3月26日

#### https://remida.reggiochildrenfoundation.org/

場所: Via Verdi 24, Reggio Emilia

レミダとは、ギリシャ神話の王ミダス(Midās)のことで、触れるものすべてが黄金となるという。ここでは廃棄されるものが、子供たちの手によって金(価値のあるもの)になる。



#### 壁面の言葉

Riciclaggio リサイクル・Trasformazione 変換・riutilizzo espressivo 表現力豊かな再利用 flusso vitale 生命の流れ・uso straniante 疎外使用・rigenerazione 再生 memoria del future 未来の記憶・rippresentazione visionaria 先見の明の表現 assemblaggio アンサンブル・accostamento 組合せ・contaminazione 汚染・evocazione 喚起 connessioni 接続・metamorfosi 変態・rinascita 再生・coscienza ecologica エコ意識 rispetto per l'ambiente 環境への配慮・concetto trasversale 概念の横断 riciclaggio vuol dire far diventare una cosa in un'altra cosa. リサイクルとは何かを別のものにすることを意味します。5才 certe cose che sono rotte si possono tenere anche solo per bellezza. 壊れている特定のものは美しさのためでさえも保つことができます。4才 riciclare vuol dire andare in bicicletta.リサイクルは自転車に乗ることを意味します。3才

Laura Pedroni さんに館内を案内していただいた。REMIDA(レミダ)は、1996年に考案され、持続可能性、創造性、および廃棄物に関する研究施設で、廃棄されるものが素材でとに整理されて保管されており、レッジョ・エミリア市やパルマ市など近隣の学校の先生が訪れる。レミダの会員になっている先生は、ここに保管している材料を無償で子供たちのための美術教育の材料としてもらうことができる。会員ではない訪問者は一部の素材を購入可能。また、ワークショップの部屋もありそこでは世界中から来る訪問者のためにレッジョチルドレンの教育方法を学ぶことができる。その部屋は、材料が色別に並べられている。その理由は、様々な種類のなかから材料を選択するよりも色で分類されている方が使用する幅が広がるとのことだった。さらに特徴的なのが光を通してモノを投影する方法。視点を変えることで想像力が広がる。ワークショップは団体のみの受付だったため参加できなかったが、ミラノにあるレミダ関連の美術館 MUBA でその教育についてレクチャーを受けられる情報を得た。今回の滞在期間では日程が合わなかったが、次回は是非参加したい。















































レミダで購入した糸、この後これを材料にして制作する

# 3. 住居・生活について

アパートへはドゥオモから約20分。トラムの駅は目の前あり便利だった。アパートは全て日本人が住んでいるので安心して住むことができた。また大家さんは近所に住んでおり、とても親切で生活に不具合があるとすぐに対応してくださった。部屋には食器・寝具・タオルなど生活必需品が常備されているので特に買う必要はなし。洗濯機は隣の部屋の方と共同で使用。

















#### 滞在許可証の申請

ミラノに到着して8日以内に滞在許可証の申請が必要。申請のためのキッドをもらいに郵便局へ行ったが、9月中旬は入学時期と重なるため多くの外国人が申請するからかどこの郵便局にもキッドが無く5ヶ所目でやっと手に入れることができた。キッドの書き方は難しかったので語学学校のスタッフに書いていただいた。キッドと必要な書類(大阪領事館の印をもらったもの)のコピーなど(原本は持っておく)をまとめて郵便局に提出する。通常は提出時に警察署へ行く日時をもらうが、私の場合は後日メールで3月6日に来るようにと連絡があった。3月6日に警察署へ全ての書類(原本)を持参し、指紋をとるために行ったが、帰国の日にちが近かったため指紋は取らず、滞在許可証の発行もなかった。

ATM(メトロ・トラム・バス)の定期券の発行

10月初日に定期券発行のため地下鉄の ATM で書類を記入し、証明写真を提出。発行料45ユーロかかる。 発行にはとても時間がかかるので時間に余裕がないと厳しい。私の場合は3時間待った。その後は毎月35 ユーロをタバッキなどでチャージをするとトラムやメトロなどに自由に乗り降りできる。

#### 携帯電話の手続き TIM

TIM という携帯会社で SIM カードを契約した。電話番号をもらい、25ユーロの手数料がかかったが、その後は毎月10ユーロで電話とネットが可能。チャージはタバッキやネットでできる。

Intesa Sanpaolo Bank 銀行

所在地: Via Cordusio, 4, 20123 Milano MI, イタリア

生活費や家賃など現金を引き出す際は、上記銀行で行った。ATM を使用するが営業時間内に行う方が安全。

### 語学学校

Scuola Leonardo da Vinci Milano

所在地: Corso di Porta Vigentina, 35, 20122 Milano MI, イタリア

https://www.scuolaleonardo.com/Italian-language-school-Milan.html

ミラノへ来てブレラ美術学院が始まるまでの2週間通った。前もって滞在許可証の記入などの手伝いもしていただけるかをメールで確認して申し込みをした。授業内容はわかりやすく自宅からも近かったので続けたかったが、夕方のクラスに私のレベルの授業がなかったため別の語学学校に変更した。事務所には日本語を話せるスタッフはいなかったが、親切で丁寧に対応していただいた。

ELLCI Italian Language School Milano

所在地: Via Niccolò Paganini, 18, 20131 Milano MI, イタリア

http://www.ellci.net/

週に2回夕方のクラスを受講した。日本人のスタッフがいるが自宅から少し距離がある。

この滞在を利用してイタリア各地の美術館などを訪問して、4月のミラノサローネ・ミラノデザインウィークを見学し帰国した。

9月:ファブリアーノ、トスカーナ地域・10月:ロカルノ(スイス)小学校の見学・12月:スポレート、ボローニャ、フィレンツェ、ローマ・2月:ローマ・3月:レッジョ・エミリア・4月:ベルガモ

# ミラノデザインウィーク展示の様子























## 4. 今後の制作活動の課題

今後の課題として、沖縄の自然環境や子供たちのために、企業から廃棄されるものをリサイクルしそれを アートに変換する持続可能な社会を目的にして沖縄を拠点に REMIDA(レミダ)のシステムを参考に、自身 の制作活動と子供たちのための芸術教育に活かしたいと模索している。

- 1. 紙漉きの技術を用いてリサイクルの観点を生かしながら制作活動を行う。沖縄の自然環境を守るために自身の制作についても積極的に発信する。
- 2. 本研究で培った構想を、子供たちを対象にしたワークショップ等を開催することにより今回の研究成果を広く活用していく。

この研究テーマをさらに推進するためにイタリア語のレベルアップとレッジョ・エミリア市を再訪し、レッジョチルドレンと REMIDA(レミダ)の教育方法の理解を深め、リサイクルアートや芸術教育による持続可能な暮らし(サステイナブルライフスタイル)を目指す。

イタリアは、「もの」を大切にして修理しながら長く使う文化が浸透しており、街中には衣類をリサイクルするための黄色いボックスをすぐに見つけることもできる。ブレラ国立美術学院での授業や子供の教育には廃棄される素材を活用(リサイクル)してアートを創造するなど、教育機関でもリサイクルの考えが人々の生活に根ざしていると感じた。半年間そこに滞在して生活すると、旅行するだけでは体験できないことがたくさんあり、イタリアの文化や生活習慣、そこに住む人々を知り、よりイタリアの文化や芸術と教育に興味を持った。

この半年間は、リサイクルとアートの融合を考え今後の目的に向かって活動するためのきっかけを作るためのリサーチだったように思う。徐々にミラノの生活に溶け込み、ここで活動するための情報を得ることができた。ミラノで活躍している女子美術大学同窓会イタリア支部の方々にお世話になり、たくさんのアーティストと知り合った。その中で、イタリア語での会話に慣れてきた3月には、念願のレッジョ・エミリア市のREMMIDA(レミダ)を訪問して話を伺い、リサイクルと子供の教育に関するたくさんの資料を得ることができたのは、今後の活動において大きな収穫である。

# おわりに

海外での生活は私にとって初めての経験で不安もありましたが、ミラノ滞在中は、佐藤和子先生や野尻奈津子さんをはじめ女子美術大学同窓会イタリア支部の皆さまに大変お世話になりました。いつも気にかけてくださり、先輩方や私と同世代の卒業生が活躍されている姿があったことは、私にとって大きな原動力になりました。この様な貴重な経験をさせていただいた女子美術大学、ご指導してくださった先生方、女子美術大学同窓会に心より感謝いたします。